

第28回 モグラ

カゴちゃん かほくがたメルドレン
ショウくん

by み3



モグラは地下にトンネルを掘りその中で生活するという変わった習性を獲得した哺乳類です。ミミズや土壌性昆虫を餌として、餌を食べ続けないと死んでしまうという特徴を持っています。

なかなか地上に姿を現さないモグラですが、モグラがいることは、モグラが掘った穴（坑道）や掘った土が積み上がった塚の存在により知ることができます。誰でも知っている身近な存在ですが、特に生きている姿を見たことのある人はかなり少ないのではないのでしょうか？それでも、モグラはその不思議な生態によって、人の噂に上ることもしばしばです。畑作をしている人からは害獣のように言われることもあります。完全な肉食の動物ですので、農作物を食べたりはしません。むしろ、害虫のコガネムシの幼虫などを好んで食べるので、本当は野菜づくりの味方です。

日本には小型のヒミズやヒメヒミズを含めると7種のモグラが生息しますが、そのうち真性モグラといわれる大型の種は、ミズラモグラ、アズマモグラ、コウベモグラ、サドモグラ、センカクモグラの5種類です。ミズラモグラは珍しい種で、現在の生息場所は山地に限られています。サドモグラは、佐渡島と新潟平野にみられます。新潟平野の個体群をエチゴモグラとして亜種とする場合もあります。センカクモグラは、尖閣諸島の魚釣島からの1個体のみの標本が存在しているだけです。

現在、日本に多く見られる種としては、アズマモグラと一回り大きいコウベモグラがいます。いずれも日本固有種となっていますが、元々は大陸から渡ってきた種が祖先と

なって日本で増えていった種と考えられています。アズマモグラの方が日本に早く渡ってきて、それまでに日本にいたミズラモグラの生息場所を奪って増えていき、やがて北海道を除くほぼ日本全土に拡がりました。しかし、その後アズマモグラより一回り大きいコウベモグラが西日本に侵入して、今度はアズマモグラの生息場所を奪って、徐々に生息場所を拡大していると考えられています。現在でも、アズマモグラとコウベモグラの陣地戦は続いており、長野県の本川上流域では、50年間に約4kmもコウベモグラの陣地が拡大したことが調べられています（阿部、2010）。

こうしたアズマモグラとコウベモグラの陣地戦は石川県でもみられ、実は河北潟の付近に境界線があります。河北潟を挟んで北と南に両種が別れて住んでいるようです。河北潟地域のアズマモグラは、生息状況の悪化等から、保全すべき種として河北潟レッドリストに取り上げられています。

(文 高橋 久)